



サザエの殻は宝箱！



お父さんも一緒♪



対話の時間に参加したお母さんたち

午後に園庭で行われたのは、一風変わった「宝物探し」。サザエの殻を自分だけの宝箱に見立て、中に入りたい一番大事なものを自分で探しました。

その後も夕方まで、身近な素材を大胆に使用して好き勝手に遊び続ける子どもたち。それを見守るお母さん、お父さん、ボランティアスタッフや遊びに来た高校生たちも含め、リラックスした笑顔があふれる時間となりました。



小笠原さん曰く、「海士町のメリットは、子育ての現場と行政が近いこと。そしてコミュニティの規模が適度に小さいこと。人どうしの繋がりがしっかりしているので、地域全体で子育てに関わっていくベースが既に出来ていますね」。

週に1回あまマーレで勤務する、一昨年までけいしう保育園で保育士をしていた大脇恵美子さんは、「あまマーレは遊び場だけでなく、親どうしの気軽な情報交換や相談の場にもなり得ます。園とあまマーレがお互いの良いところを出し合っていければ、海士町らしい、包括的な



大脇恵美子さん

子育てサポートの仕組みが実現できるのではないだろうか」と、園とあまマーレの連携に大賛成。けいしう保育園の青木豊美園長先生も、「公園と違って屋内も使えるし、親子一緒に安心して遊べる場所としてあまマーレは貴重。土日の『受け皿』として有り難い存在ですね」と語っています。

あまマーレを運営する地域共育課では、「今回好評だったので、今後BGC基地を定期的に開催していく予定。さまざまな手法を取り入れて、あまマーレをより良い遊び場に、また海士町での子育てをより充実したものにしていきたい」としています。

『地域づくりは人づくり』を掲げる海士町は、保育園から高校まで『島ぐるみの教育』をテーマに取り組んでおり、社会と教育の接点を広げること、夫婦、特にイターン女性が育児で困ったときに手助けできる環境

づくり、子育てを無理なく支える仕組みづくりが重要な課題となっています。今後あまマーレが、その独自性とメリットを活かし、島の育児の柱であるけいしう保育園とも協力しながら子育てサポート機能を発揮していくことが期待されています。



お知らせ

海士版

asobi基地

早くも
開催決定!7/12
日曜日

来てね♪



子育てママへ、新たなサポート

5月30日(土)、交流施設あまマーレにて、0歳児から小学校低学年の親子を主な対象としたイベント『asobi. 基地@あまマーレ』が開催されました。asobi. 基地とは、保育士であり「こどもみらいプロジェクト」の小笠原舞さんが2012年に立ち上げた子育てコミュニティで、子どもも大人も楽しみながら学べて育児相談もできる自由な遊び場。カフェや体育館など全国各地の様々な施設で不定期に開催されていますが、離島では初めてです。

この日は小笠原さんが来島し、あまマーレがasobi. 基地に変身！子どもには、段ボールや食器洗い用スポンジ、岩がきやホタテの殻、シーグラス、カラフルな毛糸など生活の中にある素材を使って

自由に表現できる環境が用意されました。お母さん方には子育てについての対話の時間が設けられ、日頃の疑問や悩みを共有する機会となりました。対話に参加したお母さんからは、「楽しかった！平日は仕事をしているので、休日にこういうイベントがあると親子で参加できて嬉しい」「仕事をしているママとしていないママ、それぞれの悩みはこんなに違うんだということがよく分かって新鮮だった」「あまマーレでこういうイベントをしてくれるなら、今後もぜひ遊びにきたい！」といった声が聞かれました。



小笠原 舞さん